



物流ニッポン

2008年(平成20年)

5 | 29 (木)

発行/月曜日・木曜日 第3136号

購読料/半年32,130円(月額5,355円、税込)

©物流ニッポン新聞社 2008 (昭和44年4月1日第三種郵便物認可)

日本生協連

鳥栖に冷凍センター

12月着工 物流業務を効率化

【武原頭】日本生活協同組合連合会(山下俊史会長)は二十六日、佐賀県鳥栖市の「グリーン・ロジスティクス・パーク(GLP)鳥栖」に冷凍商品を取り扱う鳥栖冷凍物流センター(仮称)を建設することで、佐賀県および鳥栖市と進出協定を締結した。九州全域をカバーする物流拠点に位置付ける。総事業費は八十億円。十二月に着工、二〇一〇年一月から稼働する。

日本生協連の鳥栖市への立地は、〇二年二月に開設したドライ商品の物流センターに続いて二か所目。現在、福岡、長崎、大分、鹿児島のみならず、鹿兒島の四か所で行っている冷凍商品の物流を今回、GLP鳥栖の建設で今一回、GLP鳥栖の敷地に建設する冷凍センター(二万五千平方メートル)と帳合センター(四千平方メートル)に集約。組合員向けの宅配冷凍商品の仕分け、保管、配送などの物流業務の効率化を図る。

また、コープ九州事業連合(東賢二郎理事長)の共同購入冷凍セットセンター、チラシ・カタロク帳合センターの役割も担う。操業時には、パート従業員を含む三百五十人を地元で新規に雇用、最終的には四百五十人まで予定している。

二十六日、佐賀市で行われた協定締結式には古川康知事、橋本康志鳥栖市長が出席した。締結式で、日本生協連の矢野和博専務は「(GLP)鳥栖

は)立地環境や雇用の条件を満たしている」と述べた。